

カリキュラム区分		4カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門基礎科目	171	2年	後期	臨床検査学科	必修	公衆衛生学実習 Practice in Public Health	45	1
担当教員								
鳥居 順子	林 弘*			佐川 輝高*	田野 ゆづき			
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
○	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
○	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
○	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
健康管理上不可欠である身近な日常生活環境の衛生的要因の測定法を理解する。測定結果をもとに公衆衛生的背景や基準値の意味の考察を試みる。 日常生活環境の中で、健康管理に関わる社会的環境分野と狭義の生活環境や環境保全分野との2本立てで学ぶ。								
到達目標（授業目標）								
各種生活環境を公衆衛生的立場から測定し、これを評価する方法論を修得する。 各項目について①測定法の原理を説明できる。②基準値の意味を説明できる。③規制（法規）を説明できる。								
授業計画（項目・内容と方法・担当者）								
回								
1回	生活環境・環境保全分野のオリエンテーション 河川水質調査：流量測定、外観（色、臭気）、水温、透視度、COD、DOの固定、水生生物調査①（林*、田野、教育協力者）							
2回	河川水質調査：流量測定、外観（色、臭気）、水温、透視度、COD、DOの固定、水生生物調査②（林*、田野、教育協力者）							
3回	水質試験法（1）：飲料水、河川水の理化学的検査（外観、温度、臭気、味、色度、濁度、pH、浮遊物質、残留塩素、塩化物イオン、硬度、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素）①（林*、田野、教育協力者）							

備考

一部の項目は機器等の都合で小班に分割しローテーションで実施する。
曜日や天候の関係で順番を入れ替えることがある（掲示やオリエンテーションで別途指示、掲示に注意）。